

ZENLESS ZONE ZERO

ISOLDE EPISODE 1~3



MACKGEE



はあ…
最近こいつに
付きまとわれて
教主の仕事が
できないな…

一度ガツンと
お説教しないと
ダメかしら…

ハハ…気持ちには
嬉しいが、歳の近い
女の子と遊んだら
どうかしら…?

あー
そんなこと
言わないで…

イソルデ大佐!
時間あるなら
一緒に食事でも
どうですか?

す



うふっ?

あっ?

あっ?

じゅぽ

じゅぽ

あれ…
どうしてこん
なことに…?

少し優しく
したからって、
舐めてるのか？

確かに……こいつを
呼び出して二度と
付きまとうなと
厳しく警告したは
ずなのに……

…予想に反して
彼が突然泣き
出してしまうてー

えっ？

ウル
ウル

ウル
ウル

迷惑かけて
すみません……

あ、いや！
話くらいは
聞いてやるから
泣くな……！

焦って少し
宥めようと
カフェに入った
だけなのに……

気がつけば完全
に彼のペース
に飲まれて
こんな姿に…

こいつ、
女の扱いが
上手すぎる…

あんた…
さっきのは
嘘泣き
だったな？

まさか
本当に悲しくて
泣いたんですよ

ふん…

ふうー

ふうー

ふうー

ところで
イソルデさん、
僕に近づくなつて
警告しに来
たんじゃ？

そんなこと言い
ながら、なんで
こんなエッチ
な下着を着て
きたんですか？

…ちっ

…私が何を
着ようがあんたに
関係ないだろ？

私は元々
こういう趣味
なんだよ…

あは、
そうなん
ですね

…言われてみれば、
私は何でこんな
下着を穿いて
きたんだ…？

バン

バン

バン

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

べち

ズち

べち

…無意識に
期待して…
いたのかも
しれないが、

どうせ…
一夜の火遊びに
過ぎない。

…早く
終わらせて。

あんた、
セックス
大して上手
くないな。

あれれ、
気持ちよく
なかった
ですか？

なんだか
申し訳ない
ですね…

はあ…

はあ…

はあ…

びく！

おっ?!

ぐんぐん

じゃあ、少し
本気でやって
みますね、月





ーという覚悟も虚しく、
イズルデは生涯出した
こともないもの凄く
みっともない喘ぎ声を
あげながらイッてしまった。

びき
いう♡

おっ
?!

うほ
おっ
ぐおっ

ド
ビュ
ッ

ビ
ュッ

休まず
すぐもう
一回、いいで
すよね？

あれ…
聞こえてない
ですか？

じゃあ…
勝手に失礼
しますね♥

うおっ？

ワイズとの
セックスは、
意識が飛ぶほど
甘美な快感だった。

ぐんっ

ぐんっ

ぐんっ

ああ
ザーメン
すごい
出た…♥

締め付け、
処女並みに
すごいですね
大佐♥

うっ…

びくっ

びくっ

はあ

はあ

あう…

お…

うふう
おっ…

旧都市陥落後11年間、
セックスどころか
オナニーさえせず
禁欲的に生きてきた
イズルデにとつては…

今日、本当に気持ちよかったです、イゾルデ大佐！♥

また今度一緒に遊びましょう♥

う…

うぐっ…♥

お…

うん

うん

どろろ

薄れゆく意識の中で、イゾルデはこれはただの一夜限りの気の迷いに過ぎないと繰り返した。

今日の決定が、己の人生を完全に変える分岐点になるとは想像すらできずに…



単刀直入に
言うわ。この前の
ことは衝動的な
失敗だった。

あなたと特別な
関係になるつ
もりはないの。

私たちの年齢差や
私の社会的地位も
弁えてほしいし。

……



こんなにきっぱり
言っても、どう
せまたつきまとい
てくるんでしょうね…

必要なら武力を
使っても確実に
拒絶するわ…!!

フッ



…わかり
ました。

そこまで
言うなら
仕方あり
ませんね。

え…？
あ、ええ…

淡々

今まで
困らせてす
みませんでした。

え…いや、
理解してくれて
ありがとう…

ザーザー

何よ。悩みも
しないですぐに
諦めるなんて…

その前は
あれほどこく
つきまといっ
たのに。

一度やったから
もう用済み、って
ことかしら…？

そりゃあ…
若い男にとつて
私みたいに年上の女
なんてどうせ使い捨ての
トロフィーよね…



…一人で過ごす
夜はこんなに
寂しかったかしら。

…ふう…
あの男のことは
もう考えないように
しましょう。

スツ

10年以上も仲間
たちの復讐を果たす
ことだけ考えて生き
てきたじゃない。

また仕事に
集中しよう。
計画はもうほぼ
最終段階よ…

人の温もりなんて
もう必要ないと
思っていたのに…

ただ忘れていた
だけかしら。







当然、この状況は
すべてアキラの
計画通りだった。

んぐっ…!

チュウッ

チュウッ

んふっ…

んっ…

女が拒む時に
強引に押し通すのは
無様で三流なオスが
することであり、

寂しい女はこんな
初歩的な駆け引きにも
簡単に引っかかることを
知っているからこそ。

そして相手が自分を
激しく求めているという
欲望を感じてしまった
メスとオスの間には—

もはや年齢差や
社会的地位の上下など
何の意味も持たなくなる。

んっ?!

アキラの手が自分を撫回す
だけでイッセルデの体は
火傷するように熱く火照り…

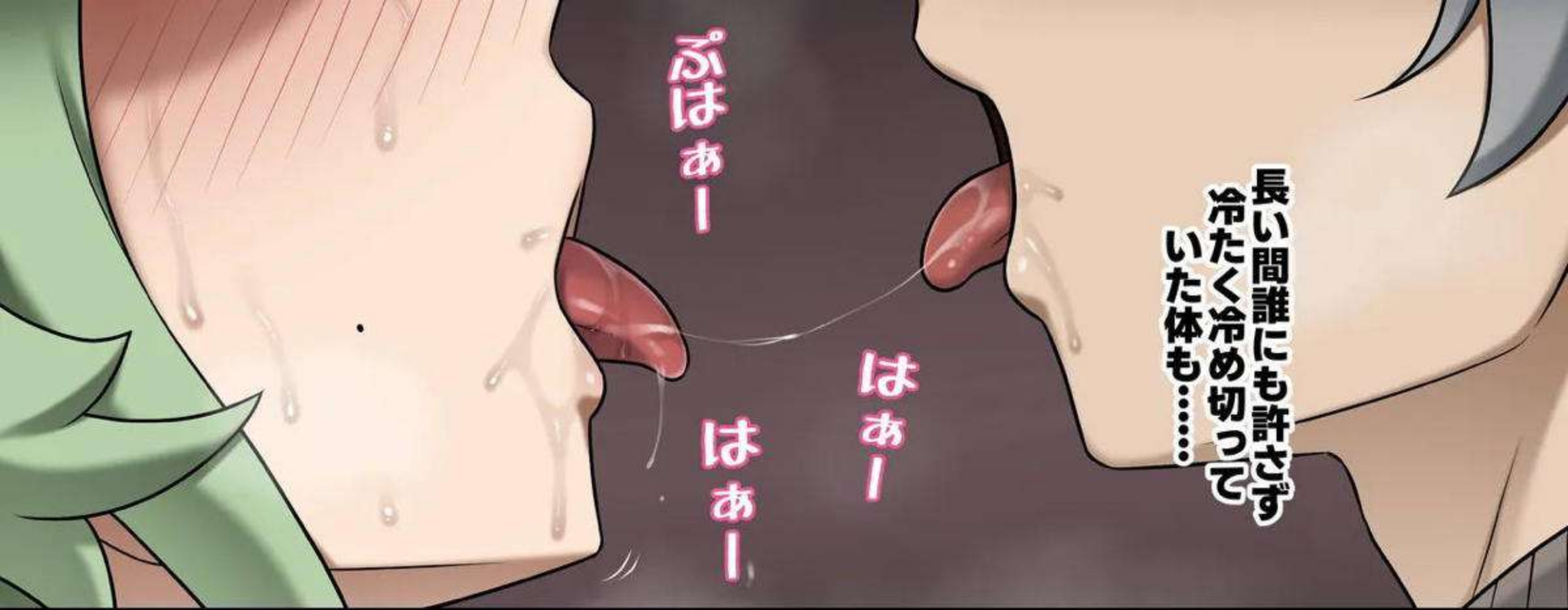
ビクッ!

ギユッ…!

ビクッ!

ビクッ!

チュルッ



長い間誰にも許さず
冷たく冷め切って
いた体も……

はあー

はあー

はあー



寂しさから目を背け
閉ざしていた心の城壁も、
あまりにも簡単に
崩れ去ってしまった。

…寝室に
行きましよう、
大佐ー♡

はあー♡

はあー♡

はあー♡

はあ…♡
ああうう…

ビクッ

ビクッ

ダメ…拒んで…
今ならまだ
拒絶できるわ…

彼は招待してもいない
不審者よ……！
拒みなさい、イズルデー！

「私の家から出て行って！！」と
毅然と叫べばいいのよ……！

言えるわ、
言えるんだから……

わたし……
わたし……

ぴくっ！

あれ？
あれ…？

どうしてこの子を
私の寝室に入れ
ちゃったのかしら…？

びく！

びく！

大佐のマンコ、
もうめちゃくちゃ
濡れてぐちょ
ぐちょですね！♥

ぐっ

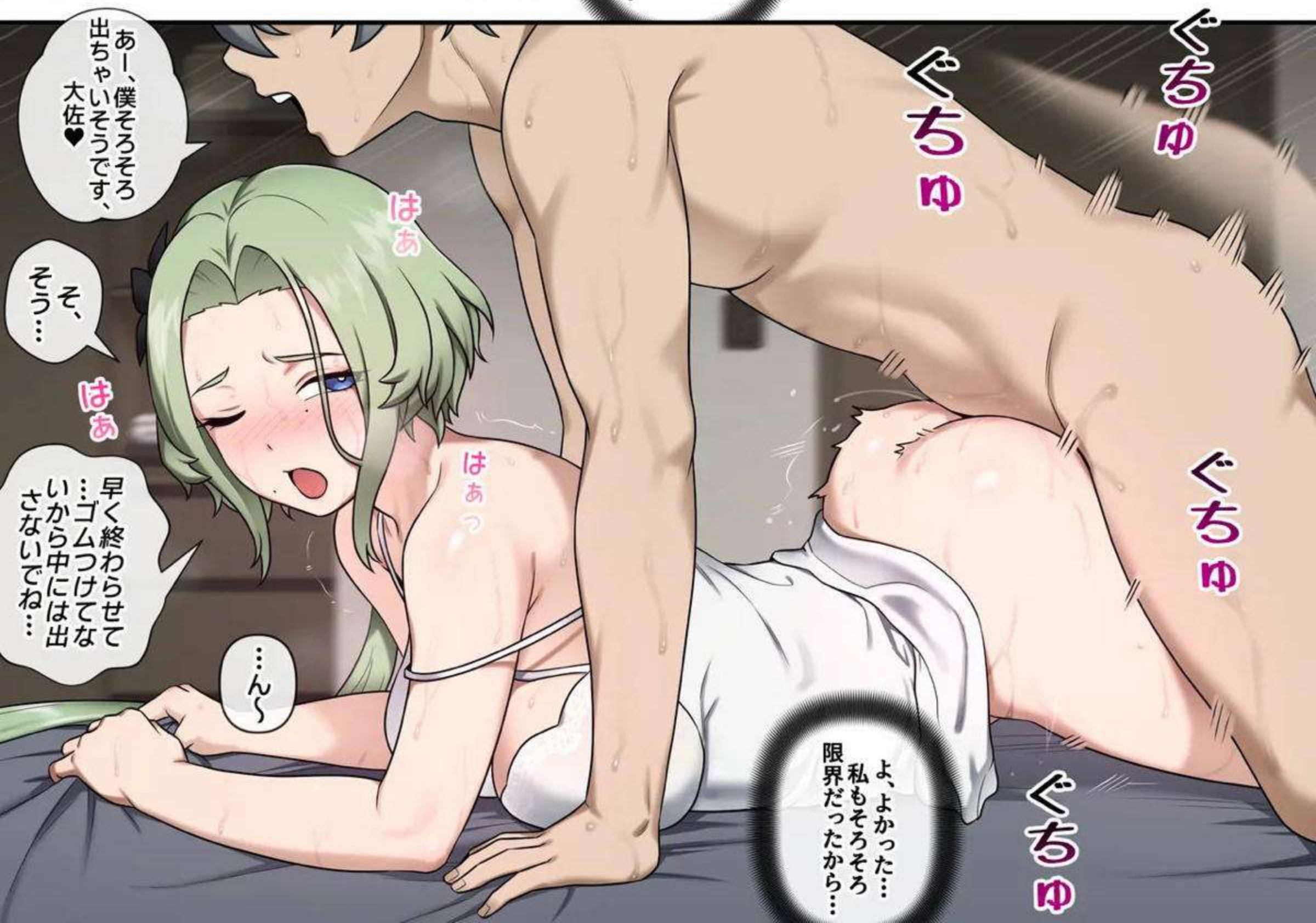
僕が入るのを
こんなに期待して
いたんですか？

んっ…
違うっ…

イク！！

ズブッ！

う…うっ…
この子のちんぽ、
長すぎて
硬すぎるうっ…





僕、今日は
中に出したいん
ですけど？

?!

何、何、
何言...!



勝手に
何言って
るのよ!!
カツ!

相談もなしに
いきなり中出し
なんて許すわけ
ないじゃない!

今すぐ
私の体から
ちんぽ抜
きなさい!!

...ふーむ



嫌です。

うぐうっ?!

ズブッ!

パン

大丈夫ですよ。
ちゃんと責任取り
ますからー♥

責任…?! いえ、
そういう問題
じゃないわよ…
あっ!

ダメ、許さない!!
押し返さない!

んっ、なぜ
振り払え
ないのよ?!

んっ

ゾグッ

うふっ

パン

パン

パン

パン

パン

パン

パン

絶対に力なら
私が軽く勝てる
はずなのに?

どうしてこんな
ひ弱な子に振り
回されてるの…?

あ、あなた
何をす
るのよ…!
今すぐ
やめて、
私本当に
怒るわよ?!

びっ

びっ

うおっ

いやっ

おおっ

ズンッ

ズンッ

あゝ

あ

あゝ

ズンッ

ういっくう!!



ネツトリ

ネツトリ

中に出さないでって
言っておきながら
マンコはこんなに
締めつけるなんて…

本当に
素直じゃあり
ませんね♡

違うう…

生まれて初めて
味わう極限の
被征服感！

好きになるはずが
ないと思っていた
感情に支配される気分！

知ってしまった以上
もう二度と
抜け出せない。

うほお

ふおく…♡

うんうん…

危険日ではなかったけれど
妊娠できるかどうかだけが
重要なのではない。

女性にとって最も

重要な決定権さえ奪われ

半ば強制的に中出しを

許してしまったこと…

どぶっ

どぶっ♡

ああ、まだ
出てる…♡

ビクッ

ビクッ

僕たち体の相性が
最高ですね！
ですよ、大佐！

あ、もうタメロで
呼んでもいいよね？
イソルデー♡

♡タメえ…
タメロに
しないで…

えー、そう言
わずに♡

まだ…まだよ…
私の本当の正体を
明かせば、きっと…
きつとまだこの関係を
終わらせられる…

私はまだこの子の
ちゃんぽ様に征服
されたわけじゃ
ないわあ…

ぜえ

ぜえ

ぜえ

ラマニアン
ホロウ
深部某所

大佐…
その服、
まさか…?!

そうよ、
私が讃頌会の
教主よ。

そ、
そんな…

もう分かつ
たでしょ?

貴方と私じゃ
最初から釣り
合わないのよ…

悪の女幹部属性、
めっちゃやそてる
んですけど♡

えっ?!

ズ
ズ
ッ
!



えー…
だって…

大佐が讃頌会の
教主だってこと、
もう知ってましたし。

真面目な
話をしてるのに
何してんのよ…!!

アンタ本当に
このホロウに
殺して埋め
ちゃうわよ?!

ぶるぶる…

えっ…?



この前大佐の家で
セックスした時、
右手で讃頌会の
紋章が光ってたんで…

大佐が寝てる間に
部屋を色々調べさせて
もらいました

知…知ってたなら
どうして私を
通報しなかったの?

? 俺の女を
通報するわけ
ないじゃない
ですか。

っ、誰が
アンタの
女よ…!!



…11年前の
事件の復讐が
目的ですよ？

知、知ってるなら…
邪魔しないで…!!

俺も11年前に
大切な人たちを
失いました。
その真実も
知りたいです。

でも…
こんなやり方じゃ
ダメだと思います。

一緒に
もっと良い
方法を探し…



甘っちょろい
ことばかり
言わないで！

私の仲間が
全員死んだのに、
私が復讐しなきゃ
誰がやるって
いうのよ?!!

ドキッ！

そうよ、奴らは
私のオルペウスを
あんな無残な姿にまで
したのよ...

ますます
許せないわ...!!



...大佐の仲間、
全員死んだわけじゃ
ないでしょう。

鬼火隊長のこと、
忘れちゃった
んですか？

...!!

...鬼火隊長は、
ただ大佐の笑う顔が
また見たいって
言っていましたよ。

なっ...!!
オルペウスが...？

ビクッ！

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

びる

びる

びる

俺が死んだ仲間の
立場でも、大佐が
復讐のために死ぬ
なんて望みません。

自分の分まで幸せに
生きてほしいって
願いますよ♥

そ、そんな...
口先だけの
綺麗事は
やめて...

こんな女たらしの
口車に乗せられて決意を
変えるわけには…！

んっ♡

ダメよ…
勝手に私の心を
乱さないで…

自分の人生を
どうするかは
私が悩んで
決めたことよ…！

くっ♡
おほお

イソルデの理性は、
案外アキラの本性を
見抜いていた。

彼はただ女を
堕とすために
甘い言葉を
囁いているだけ。

だが、彼女の
身体は命令を
聞かなかった。

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぎゅっ

まんこはとつくに
ザーメンを
搾り取る準備で
夢中になっていた。

男を突き放せと
命じられた腕と手は、
むしろ彼を強く
抱き寄せており、

すっ

怒声を

上げるべき喉笛は、
男を喜ばせるための
喘ぎ声を漏らし、

ああ

あんっ♡

はあ

はあ



あれ？
また一人で
先にイツちゃっ
たんですか？

ふぐっ

もはやイゾルデの
理性の指揮系統は、
部隊とも繋がって
いなかった…！

ぷるぷる

っ…！

まさに
クーデター…！



…本当に…

ふう

ふう

ふう

指揮すべき部隊を
すべて失った
指揮所には…

ただ一つの
選択肢しか残さ
れていなかった。



…本当にして
くれるの…?

え? 何を
ですか?

…

…死んだ
仲間たちの
分まで…

は
あ

は
あ

は
あ

び
く

び
く
び
く

私を幸せに…
してくれるって…

言えるの…!



ギチッ……!

ゆっくりと
イソルデの
奥へぐぐつと
押し込むだけ……

ギチギチ……!

自身を満たす
圧倒的な充足感に、
イソルデはようやく
実感する。

この男の腕の
中で、私は……
幸せになれる……と。

ただ今まで
以上に猛り狂った
ぶつとい肉棒を――

ふぐっ……

ギリッ!

アキラはその
問いに言葉では
答えなかった。

あ……♡

くっ……♡

びく

びく

ほんの少しの
心持ちの違いで、
快感はまるで別物に
変わっていた。



初めて
すべての
抵抗を捨て、
心を完全に
許してしまった
セックス…



っ、もうタメ口で
命じられるのも
不快じゃない…

誰かに
服従するのって、
こんなにも
幸せだったんだ…

チュルッ

チュッ

やっぱり
このナカが
弱点なんだ？

ん…そこお…
もっと奥まで
突いてえ♥

あつ、この体勢…
奥深くまで届いて
気持ちいい…

はあ♥

はあ♥

はあ♥

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

あうう…

どっくに出して
ほしいか言って。

そろそろ
出そうだけど…
どっくに出して
ほしい？

知らない
わよそんなの…
どこでもいいから
出しなさいよ…



ナカに
出してえ！

私の中に
いっぱい！
アニタの精液、
ドピュドピュ
注ぎ込んでえ！



いい子だ♥
素直になると
気持ちいいだろ？

ナカに出して
やるから、まんこ
もっと締めろ♥

うおほおっ

おうっ♥

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

ぐちゅ

今の瞬間、11年
ぶりに彼女は復讐も
憎しみもすべて
忘れ去っていた。

自分がほんの数日前には
ナカに出すなと叫んで
暴れていたことなどー

危険日に
中出ししてくれと
哀願する服従の
快感に身を委ねー

己の人生を
捧げると誓った
一匹のメスだけが
そこにいた。

イザルデの記憶には
残っていなかった。



ズボオ

…まだ抜かないで…!!

っ?!

ふう…
やっぱり完全に
堕ちる瞬間の
セックスが
最高だな♥

床が固くて
膝痛いし、
場所変えて
もう一発…

ギューッ

一番奥…
もっと長く
ぎゅっと押し
当ててて…♥

この方が
もっと…
幸せなの…♥

ズブッ

あはは…子宮口に
先っぽ押し当てろって
おねだりするなんて…

やっぱりエロの
才能あるよ、
イゾルデ♥

ごめんね、
みんな…ずっと
貴方たちの気持ち
を誤解してた…

みんなは
復讐なんて
望んでなかつ
たのに…

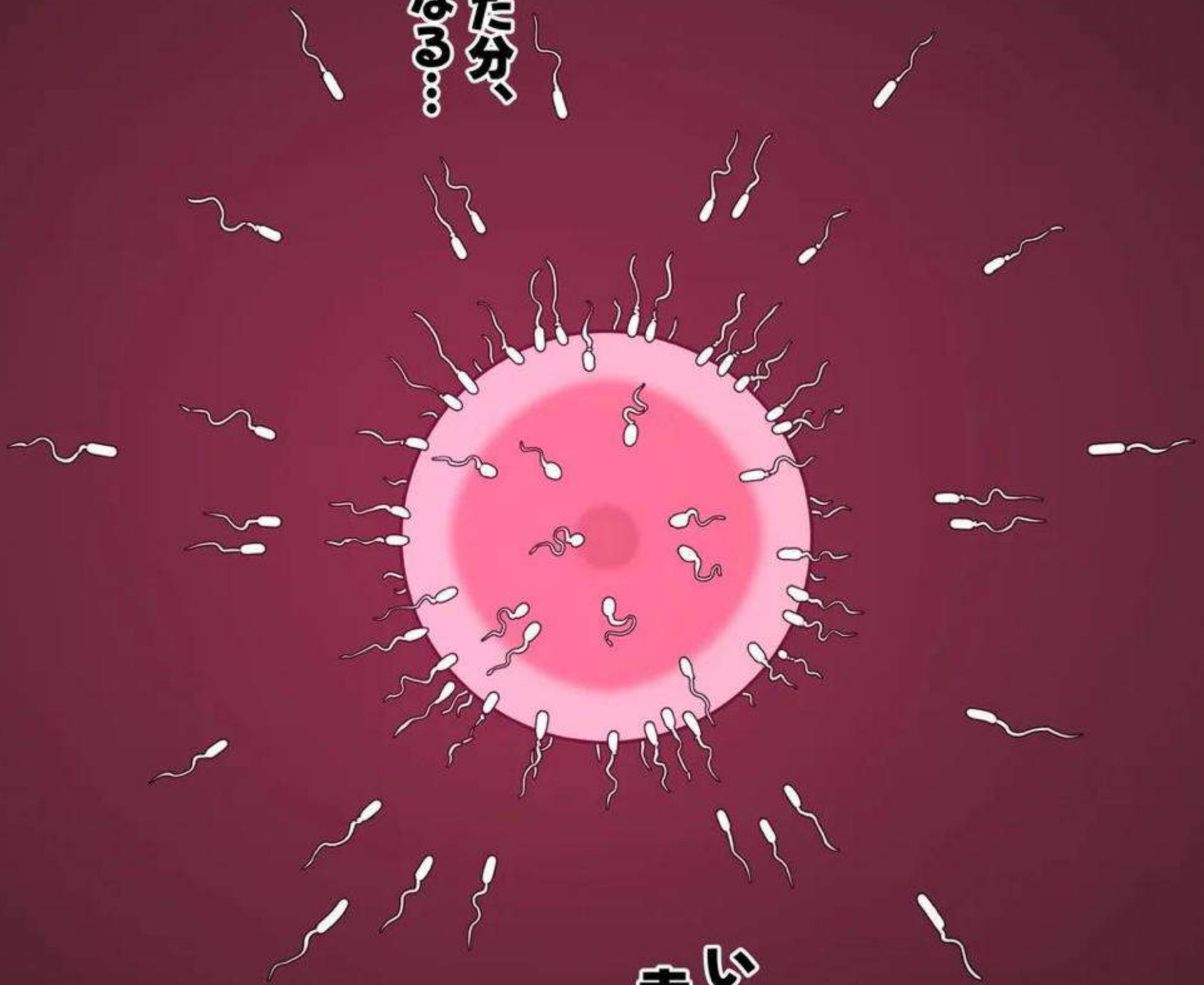
ひっ

ひっ

ひっ

みんなの分まで
幸せになるわ…

11年間
目を背けてきた分、
もつと幸せになる…



いっぱい
いっぱい
いっぱいーっぱい♡
幸せになるからー

見守っててね、
みんな…♡

数日後、
イズルデの
執務室前



最近大佐の表情、
ずいぶん明るく
なりましたよね？

うむ。
何か良いことでも
あったのだろう。

良かつ
たですね。

大佐殿。
報告いたします。

オボルス小队、ホロウ内
エーテリアス掃討作戦を
完了しました。

あつ、
あうっ……！

ち、ちよつと
待ちなさい……！

ヒッ

早く、
そのスポン
取って…!

ヒッ

どうぞ!

ヒッ

べべルトは
どこ…?
くっ…!

ヒッ
ヒッ

? なんだ、
中に誰か
いるのか…?

うーん…
なんか聞き
覚えのある
声ですけど…



バンッ!

予、予定
より掃討が
早かったのね…

ご苦労さま、
鬼火…
オルフィー

はい…
ところで大佐は
何をされてい
たのですか…?

掃除中よ!
ちようど
アキラと
一緒に…

そうでしたか!
我々もお手伝い
いたします!

いいいの!
もう終わっ
たから…!

…

ふう
ふう

ふう
ふう

ふう
ふう

ブン
ブン

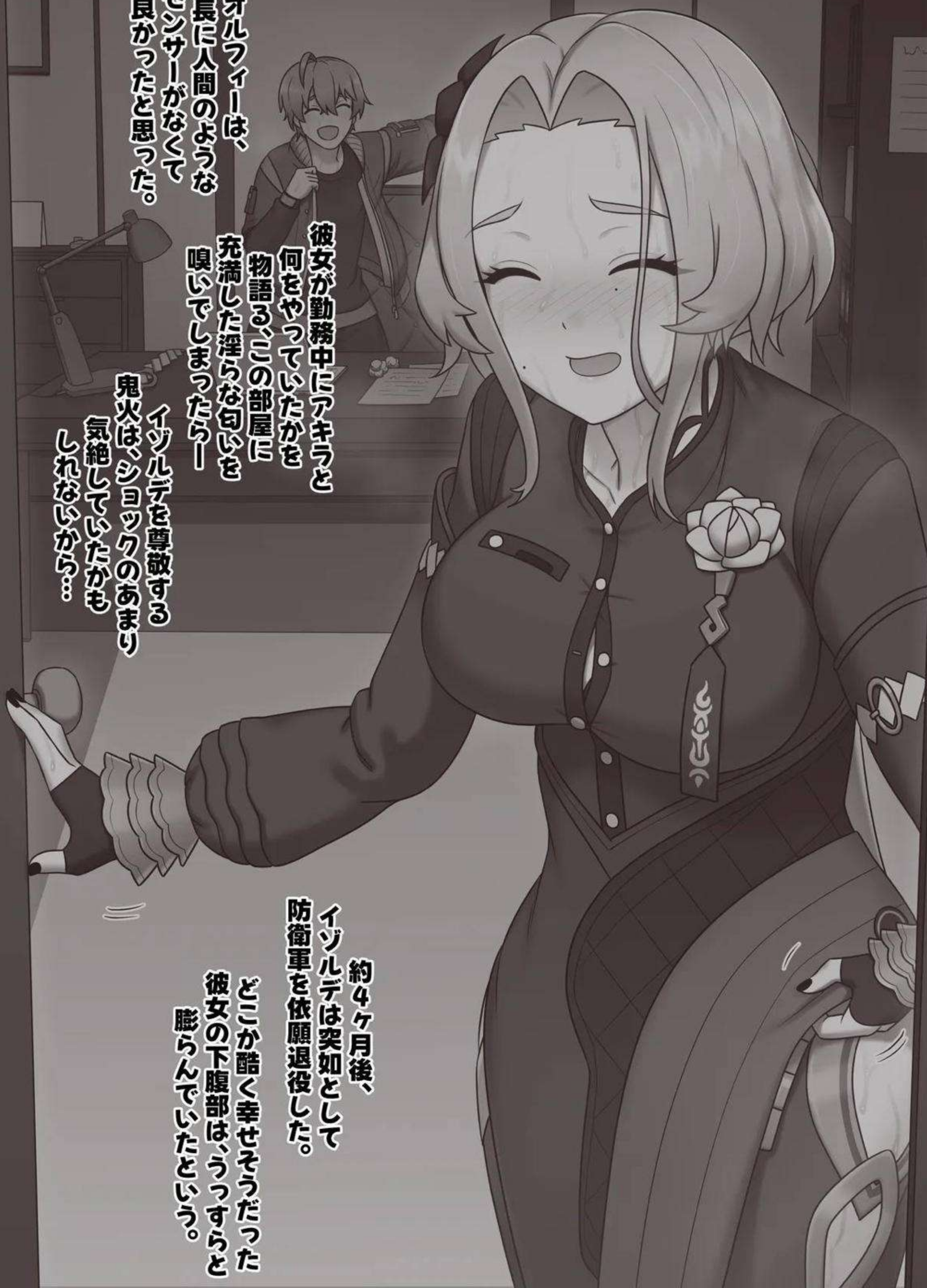
…オルフィーは、
鬼火隊長に人間のような
嗅覚センサーがなくて
本当に良かったと思った。

彼女が勤務中にアキラと
何をやっていたかを
物語る、この部屋に
充満した淫らな匂いを
嗅いでしまったらー

イゾルデを尊敬する
鬼火は、シヨツクのあまり
気絶していたかも
しれないから…

約4ヶ月後、
イゾルデは突如として
防衛軍を依願退役した。

どこか酷く幸せそうだった
彼女の下腹部は、うっすらと
膨らんでいたという。





ロスカリファも
楽しくプレイしてますが、

去年同人活動を
休んでいた時期に
出会ったキャラの中では
イゾルデが一番好きです。

トミエルが
戦闘中に
ひっきりなしに
色気アピール
してるの
めっちゃ笑う

後書き



Hoyofairの
『ROSE』MVの
イゾルデが
セクシーすぎて
泣いた

ゼンゼロの
シーズン1〜2のヴィランの
大半がそうであるように、
イゾルデも主人公兄妹との
交流が少なかったのが
残念でした…

イゾルデは3周年に
実装されるかな〜
早く実装されて
ほしいな〜

ワイズとの交流(?)の
おかげでイゾルデが
幸せに生きる世界線を
描くのは楽しかったです。

誰だか
さっぱり
分からない
シルエット

ワイズハーレム
シリーズとして
他の女性キャラも
描く予定ですが、



9月までは他作品の
短いネタを描いて、
ゼンゼロの次回作は
10月に描こうと思っています。



